

今年一月一日午後四時過ぎに、最大震度七の「能登半島地震」が発生しました。被災された方々や、お亡くなりになられた方々には、衷心よりお見舞い申し上げます。同時に、現地で昼夜を問わず活動して下さる自衛隊・消防・警察・関連各方面の方々に、心より感謝申し上げます。

こうした大地震が発生する度に、「地震が我々に教えてくれているもの」があるのではないかと思います。気付いた幾つかを書き上げました。

- ① **過去の経験を活かすこと。**
数十年に一度、又数百年に一度の地震を再認識し、その時に先人たちは、どう対処したのかの経験を活かすこと。
- ② **日頃から、準備・段取りをすること。**
地震は将来必ず来るという前提のもと、生活に必要な備品や衣服・暖房・水・食料・その他の準備をしておくこと。
- ③ **ネット・ワーク・人脈を持つこと。**
日頃から、地域・業界・友人・知人との連絡を取り合い、お互いの強み・弱みも理解しあい、仲良くしておくこと。
- ④ **相互扶助の関係を築いておくこと。**
低い土地に住む人と高台に住む人、耐震構造の建物と木造建築の人、あるいは若い人と高齢の人が互いに連絡を取り、命を最優先に行動がとれること。
- ⑤ **インフラ整備を急ぐこと。**
国土強靱化を国に要望し、将来の日本のため、今こそ国債を発行してでも、早急な対応をすること。
- ⑥ **資金を準備しておくこと。**
何といたっても、手元資金が大事です。現金や換金性の高い物も、ある程度手元に用意しておくこと。

考えてみれば、どれも我々中小企業の経営者が日頃の経営に置いて心掛けるべき項目であります。利益を出し、出来るだけ給料を高くし、財務内容を良くしていく。

社員を守り、お客様のお役に立ち、地域社会の発展に寄与することであり、日本人が元来持っていた資質を迂闊にも失っていることに気付かせてくれているのではないのでしょうか。

だからこそ、日頃の仕事に全力で取り組み、リスクを考慮し、経営を発展させていく必要があるのです。**社長の役割は、いざという時に現れるのです。「先義後利」や、「三方良し」も、**大きくは、震災のような時にこそ生きてくるのです。

能登半島地震の、一日も早い復興を願いながら、それぞれが本分を尽して参りましょう。

今月のポイント

万一の時に日頃が出る

